

第 34 回 NHK 全国大学放送コンテスト

予選 各部門講評

【アナウンス講評】

どの発表もとても聞きやすく、文字を読むのではなく、しゃべりに変換する技術を多くの方が身につけつつあることを頼もしく思いました。一方で今回気になったのは原稿の内容です。テーマをもっと絞り込んだ方がいいもの、核心の話がせっかく出てきたのに拡散してしまっているものが気になりました。自分しか伝えられない力強いものとは何か、明確に絞れているか、聞く人が思い浮かべられるように表現できているかと、客観的にチェックすることが大切です。テーマと関係の薄い談話を入れたり、きれいにまとめたりせず、ひたすらテーマを突き詰めていくことが表現力に結びつく近道だと思います。がんばって！

【朗読講評】

大学生みなさん・実行委員のみなさまお疲れ様でした。

大学生の皆さんの朗読された CD を聞かせて頂き、課題の 4 作品の中から 2 分間で分かるように自分で抜粋し、伝える……。その作業は、常日頃 7 分～10 分に抜粋した作品を相手に伝わるように朗読することは中々難しいと思っていましたが、大学生の皆さん方の 2 分間朗読を聞き、読解力があつての読み・人間味、感情の入った読み、セリフはたとえ短時間の朗読であっても相手の心に響くのを再確認いたしました。

アナウンサー読み、淡々と読む音訳読み、マイクの使い方、間の取り方の注意、プロミネンスの仕方など問題点も感じましたが、読むのではなく、相手に伝わるように、楽しく、語りかける読みを目標にこれからも朗読に励んでください。

【音声 CM 講評】

技術的なレベルの差はほとんど無く、いずれの大学も機器を十分に使いこなされているように思います。「締切」というテーマの解釈の仕方が各々に異なり大変面白かったと思います。ただ、解釈しすぎたのか、CM として訴えかけるものがぼやけてしまっている作品があり残念でした。テーマに沿った作品作りは絶対的な条件だと思います。

いずれの作品も、努力されたであろう跡がうかがえます。技術的なことや、描写する力を育くんでさらに良い作品を作っていただけるよう期待いたします。

【ラジオドラマ講評】

毎年聞かせて頂いていましたが、今年は例年以上に悩みました。が、残念ながらレベルが高く、という訳ではありませんでした。まず一つは少し観念的で、悪くいえば一人よがりな作品が見うけられたことです。台本や作品が完成したら、第三者の意見を聞くことを心がけて下さい。あと、やはり5分の作品ですので、落ちというか終わらせ方にもう一工夫欲しいように思います。落語や星新一、藤子不二雄(FもAも)等色々目を通し、決して真似ではなく、展開の仕方や落とし方を学んで欲しいと思います。他にも出演者の滑舌が悪い作品が多いのも気になります。常に、聞く人に対する思いを忘れずに、作り手の思いをぶつけてきて欲しいと思います。

【映像CM講評】

上映できた作品については、いずれも映像はよくできていました。テーマ「締切」の解釈の仕方、演出の巧妙さで順位がつけました。

演出については、技術力の違いが現われており、各校ともに研鑽していただきさらに良いものを目指していただきたいと思います。

テーマの解釈については、CMとして訴える何かを感じさせるものが必要ではないかと考えます。ただのギャグに走るだけでは、もったいないように思います。

最後に、フォーマットの違いなどの問題で上映できない作品が複数あったようです。せっかくの作品が非常にもったいないことになっています。この部分については汎用性を念願において技術的研鑽を望みます。

【映像番組講評】

全体的に映像表現に関してこだわりが感じられ、光をうまく利用した美しい映像やCGを織り交ぜた映像などとても良かったと思います。

一方で内容や扱うテーマについて……。特に震災など社会問題をテーマにしたものは全体的に取材目線が高く、大学生らしい感性や取材に欠けていたように思いました。

高く評価した作品の多くは大学生らしい個性を生かしたものでした。

未来にできているかもしれない「薬」をユニークなドラマにした作品や、モノを擬人化した作品など……。 「ユーモア」の中に「背伸びしないメッセージ」が隠されていて良かったです。

その年代にしか作れない発想や肌感覚を大事にしてもらいたいと感じました。